

防衛講演会



講師 佐藤 正久 氏

日時 平成28年5月21日（土）

場所 高松市
（JRホテルクレメント高松）

演題 「平和安全法制と日本の国防」（要旨）

- ① 自衛隊の諸活動に関する準備について
 - 自衛隊は、与えられた任務を効率的に遂行するため平素から地道な努力を続けている。
 - 例えば、災害派遣で使うスコップの先を普段から砥いで、出動時の作業効率を高める努力をしている。
- ② 政治と自衛隊の関係について
 - 国民の命を守るために存在する自衛隊に対する政治の最大の役割は、法律を整備し、自衛隊が行動し易くすることである。
 - かつて法律が未整備だったため、海外に派遣された自衛官が危険な目に遭ったことがあったが、それは政治の責任である。
 - 安倍総理は、日本の平和と安全のためにやらなければならないことは断固としてやり抜く覚悟を持った政治家であると思う。
- ③ 2人の分かり合えるリーダーについて
 - 東日本大震災時、陸前高田市市長夫人は行方不明になり、発災の20日後ご遺体で発見されたが、葬儀は公務優先のため5月下旬に執り行われた。
 - 陸前高田市で災害派遣指揮活動中だった普通科連隊長は、ご遺体発見の際に市長を弔問したが、二人は一言も言葉を発することなく、ただ涙を浮かべながら挨拶を交わし別れた。有能なリーダー同士は、言葉がなくてもお互いに分かり合えるという証左だった。